インベスト・イン・カナダ

カナダへようこそ

ビジネスは私達にお任せください

2010 年版

Canada

ハイパフォーマンスな経済

カナダ経済は世界でも屈指の柔軟性と比類ない成長の可能性を秘めています。

カナダには大規模で成長し続ける国内市場に加えて、高成長を続ける経済活動部門があります。カナダ経済はGDPベースで世界第11位の規模を誇り、多くの外国直接投資を引きつけており、ブラジル、インド、ロシアにも引けを取りません 。

カナダの強み

- カナダの2000年から2009年のGDP（国内総生産）年間実質成長率は平均で1.7%でした。これは、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリアを大きく上回る実績です。
- 国際通貨基金（IMF）は、カナダの成長率が2010年には2.6%、2011年には3.6%に達すると予想しています。これは、他のG7諸国ならびに先進経済諸国を大きく上回っています。
- 「ファイナンシャル・タイムズ」トップ500社にランク入りしているカナダ企業の数は、ドイツ、スペイン、インドよりも多くなっています。
- カナダの信用格付けは世界有数の高さで、米国や英国を凌いでいます。
- 世界経済フォーラムは、2008年と2009年の2年連続で、カナダの金融システムが世界で最も健全なものと評価しました。
- 2009年カナダ国内の銀行の融資総額に対する不良債権の割合は0.9%でした。これは、世界でも最低水準にあり、G7諸国中では最も低いものです。
- 世界中で数多くの金融機関が破綻していた時期に、カナダでは破綻した銀行や保険会社は1社もありませんでした。政府資金導入を必要とした機関も皆無です。
- カナダの銀行は北米で屈指の規模を誇ります。北米上位10行のうち、4行はカナダの銀行です。
- カナダの政府予算赤字のGDPに対する割合はG7諸国中飛びぬけて低く、GDPに対する純負債額で見た公的債務の額も、G7諸国中最小です。

優れた投資受け入れ環境

各種の事業競争力調査で、カナダは一貫して世界最高水準の投資先国としてランクされています。カナダでは平均してわずかひとつの手続きで企業の設立が可能です。

カナダの公正な法制度、世界水準の知的財産権保護、政府調達の透明性、強固なコーポレートガバナンス。これらすべてが、外国投資家の事業取引における明確性を保障します。

カナダの強み

- 世界銀行グループの報告書「ビジネス環境の現状 2010」によれば、新規事業設立に要する手続きの数の少なさで、カナダはG7諸国中第1位、経済協力開発機構（OECD）加盟国中でも第1位です。
- エコノミスト・インテリジェンス・ユニットの「ビジネス環境ランキング」では、今後5年間（2010～2014年）の事業運営に適した国として、カナダはG7諸国中第1位、世界全体で第5位と評価されました。
- 国際経営開発研究所（IMD）は、企業が世界競争力を持続させるための環境を整備・維持する能力について、カナダをG7諸国中第2位、世界で第8位にランクしています。
- 世界的なガバナンス評価機関、ガバナンス・メトリクス・インタナショナルは、企業ガバナンス環境についてカナダを世界第3位にランクしています。
- KPMGの「国別事業コスト調査」2010年版では、カナダの事業コストはG7諸国中最も低く、米国に対する全体コストの優位性は5.0%となっています。
- 産業分野別に見ても、カナダは他のG7諸国に比べ大幅な優位性を有しています。KPMGが分析した17分野のうち14分野で、カナダのコスト構造はG7諸国中最も廉価なものになっています。残りの3分野でも、カナダのコスト構造は第2位あるいは第3位の低さです。
- カナダへの外国直接投資累積残高（2000～2008年）は2008年度GDP比で24.2%で、ベルギー、オランダ、英国に続き、世界第4位でした。

みなぎる革新のエネルギー

事業研究費に対するカナダの優遇税制は、先進国中最も柔軟で手厚いもののひとつです。

カナダ国立研究機構
バイオテクノロジー研究所（モントリオール）

カナダ全国の研究機関で、外国投資家との協力による最先端の産業研究が行なわれています。投資家は、カナダの研究者の知見ならびに政府プログラムの資金提供を受けた研究施設を活用することができます。

カナダの強み

- カナダの高等教育研究開発投資が経済に占める割合は、他G７諸国のどこよりも多くなっています。
- 科学関係の発表記事の本数は、人口比でカナダがG7諸国中第1位です。
- fDiインテリジェンスによる「fDiベンチマーク・データベース」によれば、バンクーバーは燃料電池の特許申請数で北米第1位、トロントは自動車分野の特許申請数で北米第3位です。
- 世界知的所有権機関（WIPO）によれば、カナダは有効特許の総数で世界第8位です。人口比では、カナダは事業経営のためのIT手法に関する特許申請数でG7諸国中第3位、土木関連の特許申請数で第4位となっています。
- カナダの科学研究・実験的開発（SR&ED）プログラムは、世界有数の研究開発税控除と高率の研究開発費所得控除を提供しています。SR&EDによる税控除は、2009年に40億ドルを超えました。
- カナダの研究開発税制は、世界でも有数の柔軟性と開放性を誇ります。研究開発の産業分野に制約はなく、適用対象には給与、経費、資本支出、素材、委託研究開発サービスなどが含まれます。
- カナダの優遇税制は、Ｇ７諸国中第2位で、米国の研究開発優遇税制に比べると19.4%有利です。
- カナダの620億ドル規模の景気刺激プログラム「カナダ経済アクションプラン」には、高等教育と研究に対するおよそ40億ドルの投資や、投資家が利用できる国内研究施設における技術・革新プログラムが含まれています。

外国投資家の期待に応える労働人口

カナダの高度な技能を持つ労働力を支えているのは、公的資金による幼児教育から始まる学習の文化です。カナダにはまた、柔軟性に富む高等教育制度が整備されており、大学教育の他、職業訓練にも注力しています。

世界的企業が
多くの国の中から
カナダを選ぶ理由の
ひとつは、
技能労働者の
豊富さです。
カナダの
多文化に支えられた労
働力は
教育水準が高く、
優れた目標達成の
意欲にあふれています。

カナダの強み

- カナダは高等学校卒業率で経済開発協力機構（OECD）加盟国中第4位です（就労年齢のカナダ人のうち86.6%は高校卒業以上の学歴を保有）。
- カナダは専門学校卒業率でOECD加盟国中第1位です（就労年齢のカナダ人のうち専門学校卒業者は23.7%）。
- カナダは大学卒業率でOECD加盟国中第7位、G7諸国中第2位です（就労年齢のカナダ人のうち24.6%が大学卒業者）。
- 世界経済フォーラムは、経営スクールの質に関する133ヵ国を対象とした調査で、カナダを第2位にランク付けしています。
- IMDによれば、カナダの労働人口の中で雇用可能な有資格エンジニアの数はG7諸国中トップです。
- カナダは多文化の国であり、国民5人に1人は英仏語以外を第一言語としています。このようなカナダの労働人口の多様性が、異なる事業形態に迅速に適応できる、才能ある人材を求める外国投資家にとって重要なメリットとなっています。
- 特に、サービス分野のグローバル企業にとっては、多様な言語と様々な事業文化に通じている高技能の人材を有することが重要です。就労年齢のカナダ人のうち、英仏語以外の言語を話す人の数は440万人に上ります。このような言語には、中国語、イタリア語、スペイン語、パンジャブ語、ドイツ語、アラビア語、ポルトガル語、韓国語、ヒンズー語、日本語などがあります。
- カナダがグローバル企業に提供する優れた利点には、時間帯も上げられます。顧客サービスやアプリケーション開発などに従事するカナダの人材は、カナダは北米ならびにラテンアメリカと同じ時間帯地域にあることから、より高く評価・活用されています。

カナダの成長と安定性に
ようこそ

「カナダには、優れた輸送・通信インフラ、
高効率の市場、円滑に機能し透明性の高い
各種機関の利点があります。
さらに、人材育成にも
優れた成功を収めています。
教育によって、カナダの労働人口が
生産性効率向上のための最新技術に
適応する道筋が整備されているのです」

世界経済フォーラム。
「世界競争力レポート2009-2010年」における
カナダの2年連続トップ10入りについて。

先端製造業

「当社のオンタリオ州
オシャワにおける
重要な投資は、
GMと連邦・州・市政府との
強力な連携なしには
あり得ませんでした。
GMは、カナダを優れた
事業立地と考えています。
今回の投資は、
業界最高の品質と
生産性の定評を持つ
当社社員たちへの
敬意の表明でもあります」

ゼネラル・モーターズ・カナダ
業務担当副社長兼主席法律顧問
ニール・マクドナルド

航空宇宙

- カナダの航空宇宙産業は、米国、英国、フランス、ドイツに続き、世界第5位です。2008年の収益は236億ドルに上り、研究開発投資は13億ドルを超えました。
- カナダでは20の大学に、航空宇宙ならびに航空宇宙工学の大学院課程があります。
- カナダの航空宇宙生産コストはG7諸国中最少です。2009年にIBMが行なった工場立地国際比較によれば、航空宇宙製造工場の全般的競争力トップ30都市のうち、カナダの8都市がランクインしました。
- カナダの宇宙産業で働く高度技能専門労働者は6700人を超え、年間収益28億ドルを生み出しています。

自動車

- カナダは、日本と米国に次ぐ世界第3位の自動車製品輸出国です。2008年の自動車・部品出荷高は716億ドルに上り、自動車産業はカナダ最大の製造業分野のひとつとなっています。
- カナダの自動車部品産業は、1000以上の製造施設から成り、2008年の製品出荷高は243億ドルでした。
- カナダは北米自由貿易協定（NAFTA）の統合市場に属しており、特に自動車産業向けに発達した物流インフラを備えています。
- カナダの製造企業の限界実効税率は、自動車生産国トップ10のうち、2番めに低い税率です。

機械・機器

- 2009年に268億ドルの売上げを記録したカナダの機械・機器製造産業は、これまでに外国から多くの投資を受け入れてきました。
- カナダでは、同分野の法定人件費がG7諸国中最も低く、またエンジニアの割合はG8諸国中最高となっています。
- カナダの機械・機器製造業はきわめて多様であり、金属加工機械から農業機器まで様々なニッチ分野に15万人以上の技能労働者が従事しています。

農産食品

「当社は、ロジャーズビルならびにニューブランズウィック州内の他の地域で築き上げてきたパートナーシップを持続してゆくことを期待しています。カナダはオーシャン・スプレー社に門戸を開き、成長し、利益を上げるための素晴らしい立地と最適な環境を提供してくれました」

オーシャン・スプレー
プロジェクトマネージャー
ビル・フランツ

- カナダは、農産食品生産国として世界で大きな位置を占めています。2007年の加工食品・飲料製品出荷高802億ドルのうち、193億ドルは180ヵ国を超える国々に輸出されました。
- KPMG「国別事業コスト調査」2010年版によると、カナダの食品加工事業コストは、G7諸国中最も低いと評価されています。
- モントリオール、オタワ、ケベックシティー、シャーブルック、トロント、ウォータールーなどのカナダの都市は、北米大陸で農産食品事業コストが最も低い地域に含まれます。
- カナダでは厳格な家畜衛生基準と品質格付け制度が整備されており、世界中で消費される家畜製品が生産されています。カナダの豚肉の輸出高は世界第3位、牛肉の輸出高は世界第6位です。
- カナダには強固な機能性食品・自然健康製品産業があり、年間収益は37億ドルあまりに上っています。
- カナダの穀物・油糧種子加工産業は、毎年350万トン以上の小麦、オート麦、トウモロコシ、大麦、穀物製粉製品を、およそ30ヶ国に輸出しています。

カナダの農業分野における革新の素晴らしいサクセスストーリーのひとつに、キャノーラ油があげられます。これは、1978年に2人のカナダ人科学者が開発した全く新しい作物です。カナダの「Can」と油と低酸度（oil, low acid）を示す「ola」を合わせて命名されたキャノーラ油は、液状で高い栄養価があります。カナダは世界のキャノーラ市場で目覚しい成功を収めており、過去10年間にキャノーラ・オイルとキャノーラ・ミールの輸出高は倍増しています（1999年173万トンから2008-2009年には340万トンに増加）。カナダが世界のキャノーラ貿易に占める割合は現在約75%です。

化学・プラスチック

「当社は、カナダの
充実した石油化学産業
インフラの中に最適の立地を得、
バイオマスとセルロースの
多様な原料が容易に
調達できる
環境にあると
考えています」

ランクセス・カナダ
代表取締役社長
A. J. （サンディー）
マーシャル

- カナダの化学・プラスチック産業は6300の企業から成り、15万7000人が就労しています。2009年の出荷高が660億ドルに上る同産業は投資家にとって比類のないビジネスチャンスを提供します。
- 世界の化学・プラスチック産業トップ10企業のうち、BASF 、ダウ・ケミカル、デュポン、エクソンモービル、シェルケミカルズなど8社が、製造または研究開発拠点をカナダに設けています。
- 2009年にIBMが行なった工場立地国際比較調査で、産業用化学薬品工場立地の世界トップ20都市のうち、カナダの６都市がランク入りし、第1位はトロントでした。
- カナダのプラスチック産業分野における研究開発スペシャリストの数は、人口比で、フランス、ドイツ、英国より多くなっています。また、カナダの化学産業就労者の3分の1以上が大学卒業以上の学歴保有者です。これは、カナダの情報通信分野に次ぎ2番目に高い割合です。
- 化学・プラスチック産業分野の中で、特にカナダで発達している分野は、自動車部品、プラスチック機械・成形、石油化学、合成樹脂、農業用化学製品です。

エクソンモービルのサーニア製油所は、
世界で最も統合化された
石油化学事業所のひとつです。
同施設の化学薬品工場の年間生産能力は
100万トンを超え、世界最大の
化学工場のひとつとなっています。
同施設は現在約1030名の従業員を擁しています。

クリーンテクノロジー

「再生可能エネルギー分野の科学技術レベルが急速に高まる中、当社のプロジェクトは互恵的パートナーシップを形成するものです。これによりサムスンC&Tは、オンタリオ政府が州内の再生可能エネルギー生産量拡大という目標を達成するために最適なソリューションを提供します」

サムスン C&T
代表取締役社長兼CEO
池 成河（チ・ソンハ）

- カナダは、クリーンテクノロジー分野における研究開発、並びに、風力・太陽光発電、バイオエネルギー、燃料電池など、クリーンテクノロジーによるエネルギー生産において世界の先端を行っています。
- 経済先進国の中で、カナダは再生可能資源または廃棄物を利用した発電量で第2位です。また、水力発電量でも、カナダは世界第2位です。
- 2009年にIBMが実施した工場立地国際比較調査によると、風力発電所立地としての競争力トップ20都市のうちカナダの７都市がランク入りしています。
- 現在、カナダのすべての州で風力発電が行われており、2009年の風力発電能力の全国合計は3319メガワットに上りました。
- KPMGの「国別事業コスト調査」2010年版によると、カナダは、クリーンで廉価な電力及び、G7諸国中最も低料金で豊かな原材料が確保できるため、太陽電池モジュールに使用するシリコン製造の理想的な立地となっています。
- ブリティッシュ･コロンビア州の燃料電池クラスターは、雇用及び企業数で世界最大です。バンクーバーは燃料電池関係の米国特許において北米No.1の拠点であり、先端の燃料電池企業が数多く本社を置いています。
- カナダの300億ドル規模の持続可能な環境技術産業部門は、特に、水・排水処理、固形廃棄物管理インフラに強みがあります。

ノバスコシア州と
ニューブランズウィック州
の間にあるファンディ湾は、
満潮時と干潮時の水位差が
世界最大であることで知られています。
一日2回、140億トンの海水が
この海峡を移動します。これは、
地球上の全河川の流水量と同じです。

情報通信技術

「モントリオールは、
その極めて豊かなデジタル
メディア分野の人材プールと
定評のある大学教育制度が
存在し、
当社の将来的製品・技術開発
ニーズを支える理想的な
事業立地となっています。
さらに、還付可能な税控除や
その他インセンティブといった
政府支援があり、
モントリオールは、
当社がスタジオ新設にあたって
検討した都市の中で、
クリエイティブな人材と
有利な経済条件を
最もよく兼ね備えた立地として
突出した存在となりました」

THQ Core Games
経営・財務担当シニアバイス
プレジデント
スティーブ・デコスタ

デジタルメディア

- カナダのインタラクティブ・エンターテイメント産業の2008年の収益は、22億ドルを超えました。過去の全世界ベストセラー・ゲームのトップ5のうち、2つはカナダのスタジオで制作されたものです。
- 世界的に知名度の高い、Maya®、Houdini、VFXなどの3Dモデリング・アニメーション・ソフトウェアは、すべてカナダ製のプラットフォームです。業界専門家はこれらを用いることで臨場感あふれるグラフィックス、アニメーション、視覚効果を創り出すことができます。
- Electronic ArtsのバンクーバースタジオとUbisoft Entertainmentのモントリオールスタジオは、「Develop 100」ランキング中の利益を生み出すゲーム開発スタジオのトップ100リストでそれぞれ第2位、第3位にランクされています。

ソフトウェア

- ソフトウェア及びコンピューターサービス産業を合わせると、カナダの情報通信技術産業分野中、ほぼ80%を占めます。2008年のソフトウェア出版社の収益は68億ドルでした。
- 「ソフトウェア」誌によると、2009年のソフトウェア企業世界トップ500社のうち、カナダで生まれた企業は20社で、米国に続き2番目に多い数です。
- 医療費の上昇と共に、世界中の情報通信技術に関する投資のなかでヘルスケアは重要分野となっています。カナダはこの分野に強く、国内の医療IT企業トップ10企業の収益は2009年に全世界で70億ドルを上回りました。

ワイヤレス

- カナダのワイヤレス事業者の携帯電話通信インフラに対する投資は年間10億ドルを超えます。
- デロイトの「Technology Fast 50™」賞によると、北米で急速に成長しているワイヤレス企業のうち4分の1はカナダにあります。
- カナダは、世界的ネットワークインフラ整備企業が中核的研究開発活動をする場所として重要な地位を占めています。主要なワイヤレス・クラスターがあるのは、トロント、モントリオール、バンクーバーです。
- カナダでは、ロング・ターム・エボリューション（LTE）技術の研究開発がきわめて活発です。Ericsson、Alcatel-Lucentをはじめ、多くの企業がカナダでこの分野の研究を行っています。

ライフサイエンス

「オンタリオ州の支援は
当社にとって大きな
財産になっています。
当社の事業を強化し、
重要な成功要因と
なっているのです。
カナダでは事業拡大のための
理想的な立地を得ることが
でき、
病気を予防し、命を救う
当社の革新が支えてられています。」

Sanofi Pasteur
代表取締役社長
マーク・リーヴォネン

- カナダのバイオ関連産業の総売上は783億ドルに上り、医療研究特許に関しては、G7諸国中最も著しい成長傾向を示しています。
- カナダのライフサイエンス産業は、100以上の機関、670のバイオテック企業、28,000人を超える従業員から成る、最高水準の研究コミュニティーに支えられています。
- カナダの国内医薬品市場は200億ドル規模で、世界第9位です。G7諸国中、カナダのバイオ医薬品産業は最も急速に成長しています。
- カナダのバイオテック・医薬品企業は開発段階もしくは販売中の製品が300種以上に上り、カナダ国内のバイオ医薬品研究開発費は年間13億ドルです。
- モントリオール、トロント、バンクーバーは、北米におけるバイオテック事業活動の重要なクラスターであり、ライフサイエンス関連特許に関する北米都市トップ10に常にランク入りしています。
- カナダのバイオ医薬品分野で特に専門性が高いのは、ワクチンの研究開発と生産、中枢神経、腫瘍学、受託研究、臨床試験などです。
- カナダの医療機器産業は71億ドル規模で、KPMGの「国別事業コスト調査」2010年版によると、医療機器製造施設の設立・運営コストはカナダがG7諸国中最も低くなっています。カナダが特に強みを持つ分野には、体外診断、医療画像撮影・分析、及び、ポイントオブケア診断や外科手術用機器等の特定分野医療機器などがあります。

レスリー L. ダン薬学ビルは、
建築物としての受賞実績があり、
1000名以上の薬学部学生が学ぶ
最新の教育施設を持つトロント大学薬学部の
建物です。
中でも特徴的なのは、球形の、
「ポッド」と呼ばれる2つの教室です。
錠剤のような外観のこの教室は、
アーチ状の天井のガラス張り
ロビーに吊り下げられており、
そこで講義を受ける学生たちは
細い空中通路を通って入っていきます。

サービス

「カナダの輸出主導経済の成長が、当社の法人・商業サービスの需要を牽引しています。また、当社のカスタマーサービスは、世界で最もコスモポリタンな国であるカナダに多い国際的視野を持つ人々にとって魅力的なものとなっています。」

HSBC Bank Canada
代表取締役副社長
マット・ボスロック

- カナダのビジネス・金融サービス産業は、2009年の就業者数230万人、2008年のカナダGDPに占める額が3055億ドルという規模で、その質、生産性、多機能性で世界的な定評があります。

ビジネス・サービス

- 2009年にIBMが実施した工場立地国際比較調査によると、ビジネスサービス分野競争力の世界トップ20に、カナダの8都市がランク入りしています。1位と2位は、トロントとモントリオールでした。
- カナダは世界第3位のエンジニアリング・サービス輸出国で、エンジニアリング・サービス企業の雇用者数は85,000人、年間収益は130億ドルを超えています。
- A.T.カーニーの2009年世界サービス事業者立地指数によると、カナダはビジネスプロセスや知識プロセス、情報技術のアウトソーシング先として、先進国の中で米国に次ぎ第2位と評価されています。

金融サービス

- カナダの金融制度は世界で最も健全であると、世界経済フォーラムは2年連続で評価しています。
- 2009年にIBMが実施した工場立地国際比較調査によると、金融サービス分野の競争力の世界トップ20に、カナダの6都市がランク入りしています。
- カナダには、公認証券アナリスト（CFA）12,000人、公認ファイナンシャル・アナリスト（CFP）17,000人、公認会計士（CA）74,000人など、優れた資格を有する多くのプロフェッショナルが存在します。

カナダのニューブランズウィック州とプリンス・エドワード島を結ぶコンフェデレーション・ブリッジは、全長12.9キロで、冬季に凍結する水域を渡る橋梁としては世界最長です。同橋は、建設以来数々の国際エンジニアリング賞を獲得しており、耐用期間は100年として設計されています。

インベスト・イン・ カナダ オフィス
Foreign Affairs and International Trade Canada
111 Sussex Drive
Ottawa, ON, Canada K1N 1J1
メール: investincanada1@international.gc.ca
ホームページ: www.investincanada.com

© Her Majesty The Queen in Right of Canada, 2010.

カタログ番号 *PDF:* FR5-24/1-2010E-PDF
ISBN *PDF*: 978-1-100-15485-5

本書ならびにその他関連情報は、下記ホームページからご入手いただけます。 **www.investincanada.com**

フランス語版もございます。タイトル：
Bienvenue au Canada: Nous avons vos affaires à cœur.

通貨単位は、特段の表記がない限り、すべてカナダドルです。